

ピオーネ（パック出荷用）小房づくりの省力的花穂整形法			
[要約] <p>パック出荷をねらったピオーネの小房づくりでは、花穂の支梗（車）を利用すると着粒や果粒肥大がやや劣るものの、小房が得られやすく省力的である。</p>			
研究室名	果樹研究室	連絡先	08695-5-0276

[背景・ねらい]

最近の消費動向から、パック販売を前提としたピオーネ栽培も選択肢の一つとして位置づけておくことも必要と考えられる。1房詰めパックでは従来より小さい果房を生産する必要があるが、慣行の花穂・果房管理では果房重が大きくなりやすい。そこで、300～400gの房を効率よく生産するための花穂整形法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 花穂整形法を図1に示した。
2. 車利用区では慣行区に比べて、着粒率が低かった。1回目のGA処理にフルメットを加用すると着粒率が高まった（表1）
3. 車利用区は慣行の先端利用区に比べて果粒重がわずかに小さく、果房が小さかった（表2）。果房重の分布を見ると、車利用区の方が小さい果房が多かった（図2）。
4. 花穂整形および摘粒に要する労力は小房づくりの方が慣行法に比べて明らかに少なかった。とくに、車利用した小房づくりでは花穂整形に要する労力も少ないため、先端部を利用するより省力的であった（表3，4）。

以上のことから、パック出荷をねらったピオーネの小房づくりでは、花穂の車を利用すると着粒や果粒肥大がわずかに劣るものの、小房が得られやすく省力的である。

[成果の活用面・留意点]

1. 利用する支梗は花穂基部付近の約2cm程度のものとする（現在検討中）。
2. 車を利用すると着粒が劣るため、1回目のGA処理にフルメットを加用する。
3. 車を利用すると果粒重はやや小さくなる。

[具体的データ]

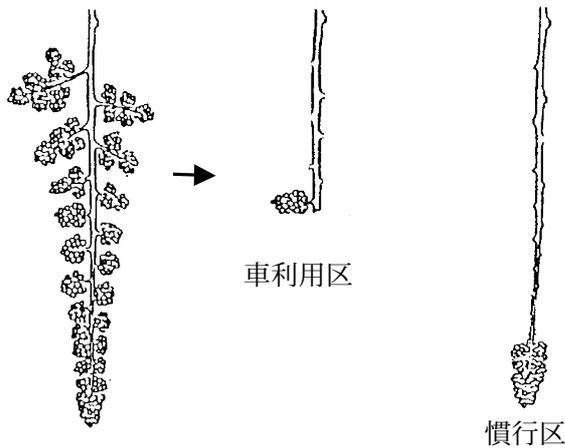


図1 ピオーネ小房づくりにおける花穂整形法

表1 ピオーネの着粒率に及ぼす花穂整形法および1回目処理におけるフルメット加用濃度の影響 (加温栽培)

1回目処理	花穂整形法	
	1車利用	慣行
	%	
GA25ppm	43.6	58.3
GA25ppm+F2.5ppm	73.9	74.4
GA25ppm+F5ppm	81.8	88.9

表2 ピオーネ果実品質に及ぼす花穂利用部位の影響 (トンネル栽培)

	果房重 (g)	果粒重 (g)	粒数	着色 (カラチャート)	糖度 (Brix)
先端利用区	427	17.5	23.9	7.7	19.1
車利用区	368	16.1	22.7	7.4	18.9
有意性	**	**	NS	NS	NS

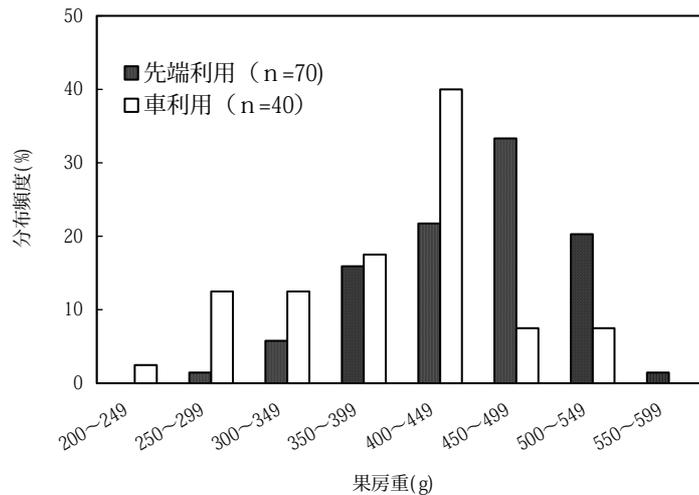


図1 花穂整形法の違いと収穫果房の重量分布

表3 花穂整形に要した時間

	1房当たり (秒)
慣行房区	14.1 (100)
小房区	
先端利用	14.1 (100)
車利用	6.6 (47)

()内は比率

表4 摘粒に要した時間

	1房当たり (秒)	10a当たり (時間)
慣行房区	27.5 (100)	22.9 (100)
小房区		
先端利用	9.7 (35)	12.1 (53)
車利用	7.6 (24)	9.5 (41)

()内は比率

[その他]

試験研究課題・事業名：ピオーネ小房づくり法

予算区分：緊急課題3,000千円の内

研究期間：平成12～13年度